



2011 年秋 Home Visit Program

最後になるかもしれない（狼少年になって来年も続いているかもしれませんが）ホームビジットが 10 月 1 日に開催されました。

当初、10 名の受入家庭がございましたが、アクシデントが重なり、8 家庭での受入となりました。JICA の応募も 16 名としたのですが、20 名の希望があり、受け入れたので、1 家庭で 4 名、2 家庭で 3 名、5 家庭で 2 名という異例の受入となりました。非常に心配したのですが、JICA の方々も、受入家庭の方々も、何の問題も無く、非常に良かったというご感想をいただき、本当に良かったと思います。IIN メンバーの底力を垣間見る思いでした。

(1)

うちに来てくれたのは、ソロモン諸島からきた女性と、マレーシアからの男性です。お二人とも、にこやかでたのしい会話ができました。

飲み物は、水、麦茶、コーヒー、フルーツジュース、を用意しましたが、お二人ともフルーツジュースを好んで飲まれていたようです。お茶菓子の”するめ”の感想をきくと、ソロモンにもマレーシアにもあるということで、驚きました。

家の中を案内し、お風呂の入り方やトイレの説明をしました。マレーシアの 35 歳の方の家も同じようだとのこと。彼には小さいお子さんがふたりいて、パソコンでかわいい写真をみせてもらいました。たくさんのおみやげもすでに買ってあるそうです。イスラムのスカーフをつけた奥さんも働いていて、帰りは 8 時になるそうで、いつも彼が夕食のしたくをします。日本人の男性より家事に協力的なのにもおどろきました。

おふたりとも、メールで今も連絡をとりあっています。ソロモンの彼女とは、買い物に今度一緒に行こうと思っています。1 ヶ月後には帰国するおふたりですが、メールで keep in touch を続けていければいいと思います。

(2)

パプアニューギニア人のトビーさんと、ベトナム人のハーさんがお越し下さいました。我が家では、娘が塾で外出だったため、夫と私でお迎えしました。

初めに、和菓子とお抹茶を頂きながら、両国の話を伺いました。トビーさんはパプアニューギニアの民族バッグを見せてくださったり、お子さんの写真を見せてくださったりしました。ハーさんは、JICA のイベントで、抹茶を飲んだことがあるとおっしゃっていたのもあってか、お二人とも全て食べられました。

次に、夫の浴衣を羽織って、写真を撮りました。これは、お二人とも初体験だったそうで、喜んでくださいました。その後、娘の剣道の防具とビデオで練習の様子を紹介しました。面をかぶられたりして、興味を示してくださいました。





習字を体験して頂きましたが、ベトナムでは第二次世界大戦前まで漢字を使っていたようで（今はアルファベット）、ハーさんは自分の名前を漢字で書かれていました。

パプアニューギニアでは、80以上の言語があるようで、第二次世界大戦前には文字を持たなかったそうです。今は英語を共通語として学校では使われ、民族の言語も引き継がれているなどトビーさん

から興味深いお話を伺いました。お二人とも、日本独自の文字、ひらがなカタカナに興味をお持ちだったので、用意していた手作りのしおりに、お子さんの名前などをカタカナで書いて記念に持って帰って頂きました。

その後、I I N会員のHさんご夫妻も合流されました。楽しい時間の後、最後に、折り紙を体験して頂きました。トビーさんも慣れない手つきで一生懸命作って下さいました。ハーさんは、ベトナムに既に折り紙文化が伝わり、教育にも使われているようで、特に珍しい様子でもありませんでしたが、お付き合いくださいました。娘が手作りしていた、変わった毬型に仕上げた折り紙もお土産に持って帰って頂きました。



あっという間の三時間半でした。

大人だけでしたが、和やかに楽しく過ごすことができました。前回のホームビジットの際、出張で不在だった夫が今回初体験で、日本の文化の紹介も大切だが、相手の国の文化や政治などを質問するととても喜んで答えてくださり、自分も興味深かったと話していました。

(3)

我が家にはナミビアのジャッキーさん、バングラディッシュのファーハーンさん、ハイチのジンさんの三人が来られました。家族の外出がわかっていたので、会員のHさんにお手伝いをお願いしていました。Hさんが研修員の国について調べてくださったので、話題に事欠かず、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

特別のおもてなしはなくても、靴をぬぐこと、畳の部屋など、些細な事でもとても興味を示してくれ、喜んでくださったようです。JACA研修員の皆さん、Hさんには感謝、感謝です。

その後、研修員の三人と face book でお友達になりました。



(4)

心配してたお天気にも恵まれて楽しい午後のひとときを過ごしました。まず、キンモクセイの香り漂うマイガーデンで自己紹介。ベトナムの女性（30代）と、チュニジアの男性（20代）で、ともに1か月の滞在です。

ベトナムの女性は今回は2度目の来日で、3年前に東京JICAを通じて10日間来ていらっしやったようです。彼女の仕事は、デザイン（日常雑器）関係。日本が大好き、なま魚OK、回るお寿司、おさしみは大好物とか。今回は、京都で舞妓さんといっしょに写真が撮れてVery Happyだったとか。笑顔がかわいらしくて終始ニコニコ、英語も流ちょうで、私はタジタジでした。

チュニジアの男性は、公務員でエネルギー（電気関係）の仕事。趣味は合気道、映画鑑賞、読書（特に日本の漫画）。大阪では、カラオケにも行ったとか。まだまだ低いチュニジア女性の社会的立場なども、もの静かに語って下さいました。

あっという間にお別れの時間です。アラビア語、フランス語、日本語、英語であいさつを。JICAでは、いつまでも手を振っていらっしやったおふたりの姿が、私は忘れられません。

(5)

此のたび我が家に来て下さった方がたは、ベトナムから女性2人、インドから男性1名そしてメキシコから男性1人の4名でした。

お抹茶と和菓子を頂きながら、本当にいろいろと多岐にわたって話が進みました。インドとベトナムでは、今や女子たちにも高学歴とキャリアを積んで幸せな結婚を望む人たちが増えてきているそうです。そしてインド人のアランさんにも13歳の娘さんがおられてそのように育ててほしいと私学の学校にいれられてとのこと。メキシコ人のエルメスさんは、JICAプログラムのIntellectual Property（知的財産）の研究員で、将来的にはその事の起業を考えている好青年でした。ベトナム人のヌフンさんが、日本人がうどんなどを食べる時、音を立てるがどうもマナーとしては、と言われて、みんなが納得!!!

楽しいひと時も、瞬く間に過ぎ最後 アランさんの好きな歌 ”すき焼き”を合唱とベトナム人のサーンさんの独唱でお開きとなりました。

(6)

今回のJICAホームビジットでは、パキスタンとベトナムの男性そしてマレーシアの女性の3人を会員Kさんのお手伝いをいただいて、我が家におむかえしました。最初はどんな方々が来られるか不安もありましたが、みなさん友好的で愉快的な方々で、お会いして数分後にはそんな心配も払拭していました。

我が家では、あいにく人数分の着物を持ち合わせていなかったため、夏用ですがとことわって浴衣を勧めてみたところ3人ともぜひ来てみたいとの希望があり、浴衣を体験してもらいました。着心地はとてもカンフォタブルだそうです。浴衣のままで、簡単なお手前で抹茶と和菓子を楽しみ、その後書道体験をしてもらいました。それも短時間の心づもりにしていたところ、思いがけず彼らの練習に熱が入り、小一時間後には各々初めてとは思えない程の立派な作品を仕上げられました。

あっという間の4時間で、私たちも楽しみまたJICAの研修湯員の方も楽しんでくれたらしく、すぐに喜びのメールをいただきました。本当に意義のある素晴らしい数時間で、新しい国の友人も増えました。

(7)



当日ご訪問いただく方が変更になりましたが、その事で、女性お二人が来られる事になり、同性同士のせいか、お二人の間でも楽しい会話があったようでした。

前回初めての参加の際には、先約があり参加できなかった妹の家族が今回参加でき、来られた方お二人にも、私の姪や甥と同じ年頃のお子さんがおられる事もあって、子供たちのダンス、ピアノ、歌をととても楽しんでいただけたようです。

家族全員でも何曲か日本の歌を紹介させていただきましたが、録音までされて、覚えたいと喜んでおられました。何と言っても、一番は姪の得意な折り紙で、一生懸命覚えて、本国に帰られても作りたいとの事で、ご滞在の間に JICA まで、テキストと折り紙をお届けするお約束をし、再会を楽しみにしております。

機会があれば、また是非参加させていただきたいと考えております。



(8)

ベジタリアンのインドの女性だったので、ベトナムの男性には気の毒だったが、お茶と和菓子と果物でのおもてなしとなった。

インドが広大で、地域による差が非常に大きいこと、文化的、民族的に非常に多様性に富むことを教えてもらった。彼女の結婚が来月であり、同じカーストに属する人であると言っておられた。カースト制度は厳然と存在するようである。

ベトナムも北、中央、南で文化的に非常に異なっていることを教わった。ホンダのバイクが人気があり、水力発電が電気の大きな比重を占めているが電力事情は悪いようである。

お二人とも、奈良や京都の神社仏閣は非常に面白いと感じておられるようで、特に東大寺の大仏様は見事であるとのことだった。